

# 福島原発事故 避難者裁判を支える会・えひめ ニュース

No. 6

2016年12月1日  
〒790-0852  
松山市石手2丁目9-21  
TEL089-977-8155

第7回口頭弁論が9月6日、松山地裁で行われ、約30人が傍聴しました。  
60歳代の原告夫妻の意見陳述は、以下のような内容でした。

原発事故前は、バーベキューパーティーや  
花火大会など楽しい催しがありました。

私（現在68歳男性）と妻（現在65歳）は、原発事故時、福島県南相馬市の自宅で2人で生活していました。当時、私は市の嘱託職員をしていました。

原発事故後、南相馬市の私に住んでいた地域は強制避難地域に指定されたので、私と妻は平成23年3月16日に二女が居る北海道に避難しました。二女は、夫と子ども3人と夫の両親と7人で牧畜をしていました。家の一室を借りて、妻とふたりで居候していましたが、私は仕事もなく、毎日孫の世話をするくらいしかすることがありませんでした。二女は、さすがに原発事故で避難してきた私と妻に対して何も口にはしませんが、今まで7人で円満に生活していたところに私と妻が入ってきいて、私と妻は長期間居るらしい雰囲気を感じるようになりました。

そこで、平成23年10月に私

と妻は、北海道の二女宅を出て、長女の居る松山にきました。ちょうど3人目の子どもが生まれる時でした。平成23年10月から平成24年4月までの半年間、長女宅の一室で生活しましたが、居づらくなつたのは二女の時と同じで平成24年4月に民間のアパートを借り、家賃の負担が高かったので平成25年4月からは市営住宅（仮設住宅）で生活するようになりました。

私が住んでいた地域は、原発事故直後は強制避難地区に指定されていましたが、私と妻には東京電力から毎月賠償金が支給されていましたが、平成24年9月に強制避難指定が解除されたので、それ以後は賠償金の支給はなく、年金と預金の切り崩しで生活しています。

私は、平成25年に悪性リンパ腫、平成27年に大腸ポリープに罹り手術を受けました。主治医からは「震災避難後のストレスで病気になる人が多いです」という説明を受けました。妻も、孫の世話をするくらいしか気が紛れることはなく、「すぐに疲れる」「何もしたくない」といったことをよく口にするようになりました。

私が原発事故時に住んでいた地区は強制避難の指定が解除されましたが、帰宅する人は少なく寂れてしまっていました。原発事故前は、バーベキューパーティーや花火大会など楽しい催しがありましたが、原発事故によってコミュニティが完全に崩壊してしまいました。町に若者は帰って来ず、老人だけの活気のない町になってしまいました。

当時住んでいた家は持家ですが、事故後は誰も住んでおらず、年に1、2回帰って家の掃除などを行っています。この間、南相馬市役所から私の家の庭の写真が送られてきたので何かと思うと、「雑草が生い茂っているので何とかしてほしい」と書かれており、少なからずショックを受けました。業者に除草してもらいましたが、この費用も東京電力からは出ずに自腹です。

南相馬に帰ってきている人で畑で野菜を作っている人もいますが、昨年までは採れた野菜からセシウムが検出されて全く商品にも自分の食料にもならなかったそうです。

私と妻は、放射能が怖いので南相馬に帰宅することは考えておらず、たまに北海道の二女宅に行きながら、生活の本拠を松山において、ふたりで余生をおくつていこうと思っています。

コミュニティが完全に崩壊し、若者は帰って来ず、老人だけの活気のない町になってしまいました。



## 第8回口頭弁論日程

日時 12月7日(水)  
14:30開廷

場所 松山地方裁判所

※14時前までには地裁ロビーにお集まりください。  
裁判終了後、愛媛弁護士会館で報告集会を行います。

(松山市三番町4丁目8-8)

# 東北・四国 心行き交う盆踊り大会 ～ 追悼と復興を祈る盆踊り～

## 開催しました(\*~)

【報告】

NPO法人えひめ311

片岡貴夫



この盆踊り大会は、散り散りに暮らし孤立しがちになる四国内避難者同士の貴重な交流の機会であると同時に、現在東北に住む方を呼んでの、相馬盆踊り・気仙沼音頭といった東北の芸能文化を愛媛で行なってもらうことで東北と四国の接点をより太くしていく機会として開催しました。一般参加者、関係者、スタッフ含め300名を超える大規模な行事とすることができました。

避難者が悩みや相談事について、何か解決を得たということとは直接的にはありませんでしたが、福島のパン・連長の「辛いこともあり今は心配だろうが、昔を思い出して笑ってほしい。生きていて良かったという瞬間を見つけてほしい。」という思いの通り、今回の交流が、避難者の“生きるエネルギー”に繋がったのではないかと思います。

東北の芸能のほか、地元からは「よさこい」が披露されました。また、餅まきや内子町石畳地区のみなさんのおにぎり無料提供のほか、数々の出店「野菜カレー」「しいたけステーキ」「動物を使わないケーキ」「おでん・かき氷」「ポップコーン・わたあめ」「フランクフルト・わらび餅」「枝豆・いなり」「焼きそば・コーヒー」が並び、楽しい一日になりました。



### お店紹介

## 福島出身の女性、頑張ってます！

## レストラン・カフェ とおから



福島県双葉郡富岡町で介護の仕事をしていた恵美さんは、東京電力福島第一原発の事故で強制避難を余儀なくされました。避難先の東京で松山市出身の池田大樹さんと出会い、この夏、ご結婚、大樹さんの故郷・三津浜で10月10日に「レストラン・カフェ とおから」をオープンしました。店の内装も自分たちで手作りした、メキシコ料理のタコスが食べられる家庭料理の店です。店内には恵美さん手縫いの雑貨や大樹さんのCD等の販売コーナーもあり、ライブやワークショップなども随時開催しています。

避難者の方たちが気兼ねなく語り合える場として、お気軽に利用してほしいとのことです。

12月29日（木）15時～22時には、年忘れイベントを企画しています。

営業時間

12:00～15:00 18:00～23:30

定休日 月曜日

松山市住吉1-4-18 住吉すずビル3F

TEL090-9452-9801

※伊予鉄〈三津駅〉より徒歩1分、駅前の橋を渡ってすぐです。



※「とぉから」は伊予弁です。